

No. 92

すくらむ

2019.10.18 発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P.1

巻頭言

「当たり前」の支援 「支え合う」支援

P2

- ・『交流及び共同学習ガイド』が改訂されました
- ・進路実現に向けた学校ジョブコーチによる就労支援

P3

- ・2019年度の研修講座から、一部を紹介します
- ・「音声付教科書」の紹介

P4

- ・高次脳機能障がいについて
- ・実践研究発表会のご案内

巻頭言 「当たり前」の支援 「支え合う」支援

福井県教育庁 高校教育課
参事（特別支援教育）

坪川 修一郎 氏



一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育環境の充実が求められている中で、小中学校、高等学校の特別支援教育を取り巻く現状として、支援を必要としている子どもたちの増加や支援ニーズの多様化等の状況がみられます。そのため、教職員の専門性向上や支援体制の構築等の重要性が高まってきています。

まず、教職員の専門性向上についてですが、来年度以降、小学校から順に本格実施となる学習指導要領の解説には各教科等の指導での障がいのある児童生徒への支援例が具体的に記載されています。それらの支援を「特別」なことではなく「当たり前」に行っていくことが必要になってきます。今年度も特別支援教育センター等で開催している研修講座に多くの参加がみられますが、このような研修で得た一人ひとりの教職員の「学び」「気づき」を実践の中で校内外に広く共有していったほしいと思います。

次に、支援体制の構築についてです。一昨年度から3年間、教育支援専門員が県内の全小中学校を巡回し、個別の教育支援・指導計画の作成や校内の支援体制作り等の相談にのってきました。また、昨年度から高等学校での通級による指導も開始されています。小中学校からさらに高等学校まで、個別の教育支援・指導計画等のツールを活用して、支援をつないでいく仕組みの確立がすすめられています。また、同時に教育と医療・福祉等の関係機関との連携強化も必要です。支援ニーズが多様で複雑になっている中で、それぞれの機関が知恵を出し合い、支援者同士がチームになり支え合いながら子どもたちを支援していくことが大切になっています。

現在、ラグビーワールドカップで日本中が盛り上がっています。選手たちはこのワールドカップを目指して一人ひとりがスキルアップに励んできました。そして、試合では自分の役割を自覚し、できることを泥臭くひたむきに行っている姿がみられます。この姿をみて、胸があつくなると同時に、昨今いわれる「チーム支援」という言葉の中の「チーム」の在り方について考えさせられます。

『交流及び共同学習ガイド』が改訂されました

福井県教育庁 高校教育課 特別支援教育グループ

平成31年3月に文部科学省『交流及び共同学習ガイド』が改訂されました。同省の「心のバリアフリー学習推進会議」が取りまとめた報告書「学校における交流及び共同学習の推進について」を踏まえ、内容が一新されています。

今回の改訂では、障がいの有無にかかわらず「社会性を養い、豊かな人間性を育むこと」に加え、「**経験を深めること**」「**お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となること**」など、**その意義について新たに示されています**。また、交流及び共同学習の成果について、障がいのある子とない子に分けて、次のように示されています。

- 障がいのある子・・・学校卒業後においても、様々な人々と共に助け合って生きていく力となり、積極的な社会参加につながる。
- 障がいのない子・・・障がいのある人に自然に言葉をかけて手助けをしたり、積極的に支援を行ったりする行動や、人々の多様な在り方を理解し、障がいのある人と共に支え合う意識の醸成につながる。

さらに、「相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする」交流の側面と、「教科等のねらいの達成を目的とする」共同学習の側面があり、この二つを一体的なものとして捉え、推進していく必要があると示されています。

本県では、「交流及び共同学習」を福井県教育振興基本計画に位置付け、平成27年度から今年度までの5年間で、県内全ての公立小中学校と特別支援学校が学校間交流または居住地校交流を推進してきました。福井県における交流活動の回数は、全国平均を上回るとの調査結果も出ています。これは、小・中・高等学校側の受入れの理解と特別支援学校側の啓発活動、両校による丁寧な打ち合わせなどによるものと思われます。今後もこれらの活動によって、障がいの有無にかかわらず、誰もが相互に支え合える社会につながることを期待されています。

※文部科学省『交流及び共同学習ガイド』（2019年3月改定）

（HPのURL）http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/1413898.htm



進路実現に向けた学校ジョブコーチによる就労支援

福井県教育庁 高校教育課 特別支援教育グループ

特別支援学校の中・高等部では、校内での作業学習や校外での職場見学・実習を通して、働く意義を理解し、就労意欲やコミュニケーション力・持続力などの職業スキルを高めています。

本県では、各校に「**学校ジョブコーチ**」を配置し、就労を応援していただく企業を開拓したり、生徒の職場実習に同行してサポートしたりする取り組みを行っています。現在、「**就労応援サポーター企業**」として**245事業所**が登録しており、例えば、パン作りや清掃指導など各校へ技術指導に出向いたり、**職場見学や長期の職場実習（1～3週間）を受け入れたりと、子どもたちのキャリア発達のために協力**していただいています。

また、子どもたちにとって、実際に企業などの現場で、学校ジョブコーチから必要なサポートを受けながら、校内の作業学習で身につけた力を試し、振り返ることは、卒業後の進路希望の実現のための貴重な経験となっています。こうした経験を積み重ねることにより、子どもたちの希望や適性に合った企業等への就労に結びつけています。

※福井県高校教育課「『ともに働く』就労応援ふくい（特別支援学校）」

（HPのURL）<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/koukou/tokushu/tomonihataraku.html>



「就労支援サポーター企業」募集ちらし



2019年度の研修講座から、一部を紹介します



令和元年6月26日 「思春期・青年期における支援

ー発達障がいとゲーム・ネット・スマホ依存ー

愛知県医療療育総合センター中央病院 医長 吉川徹先生より、**発達障がいのある児童生徒に対しての、デジタル機器との付き合い方や依存に陥った時の支援の仕方**についてご講義をいただきました。「**発達障がい児のデジタル機器との付き合い方に関する現状と課題**」として、発達障がい児の特性を踏まえたインターネットの利用の仕方、「**ゲーム・ネット・スマホ依存に陥った児童・生徒の対応について考える**」として、インターネット社会においての大人ができることや不登校についての考え方を具体的にお話していただきました。以下に、講義内容のポイントを紹介します。



・ゲームとネットの世界は本気で面白いことを認めないと、子どもとは話が通じない。時代は後ろには戻らないので、子どもの世界に興味を示すことや知らないことは子どもに聞くことが大事。

・使用している機器、接続方法、いつ、どこで、誰としているのか、お金はかかっているのか、どのようなルールを誰と決めて行っているのかを確かめ、子ども同士や養育者との関係など、関係を評価していくことが重要。

・情報ネットワークを正しく利用できる能力を育てるためには、大人が勉強しないとイケない。

・依存かなと思ったら、依存の実態を把握する。子どもの行動を観察したり、子どもに伝えてもらえるようなやり方で子どもに尋ねる。取り上げるのはたいてい無意味。

・ネットとゲームの他にも、楽しいことややりがいのあることが、この世の中にはたくさんあると思わせることが最大の予防。

・不登校になったら、家族と社会の接点、本人と家族の接点を根気よく作っていく。同級生とつながっているか、ネット上に友達がいるかなど、不登校の状態像が改善しているかを見ていく。例外はあるが、安心していつまでもひきこもってられる家からは、子どもはいつか出ていく。

・ネットとデジタル機器は子どもが安全に使えるものではないので、使わせる前の約束が大切。約束は大人が守らせるもの。守らせることができる約束をする。

・デジタル機器に触れさせるには、文字が読めて、数概念ができていれば、早すぎるということはない。

「ネットやゲームはやめましょう」という話かなと思って受講しましたが、これからの時代を生きていく子どもたちが上手くデジタル機器と付き合い合っていけるよう援助していく必要性和難しさを感じました。子どもからネットやゲームを取り上げるのではなく、前向きに取り組んでいくことが大切だと思いました。



アンケートより

ゲーム・ネット・スマホ依存の生徒に対して、自分が何かできるか、どんな支援ができるかのヒントが見つかったような気がします。

先生ご自身が精通されているからこそ、核心を突いた具体的な内容で、イメージしやすく、楽しい講義でした。

ペンでタッチすると読める「音声付教科書」の紹介

- ・教科書の紙面上には見えない2次元コードが重ねて印刷されています。
- ・通常の教科書と見た目はほぼ同じで、通常の学級でも使いやすいです。
- ・鉛筆や蛍光ペンでメモを書き込むことができます。
- ・付属の音声ペンで紙面をタッチすると、タッチした部分の文章の朗読音声再生されます。



- ・教科書を読むことが困難な児童生徒に提供されています。通常のB5サイズと拡大版（A4）から選べます。
- ・光村図書出版と東京書籍の国語（小学1～6年、中学1～3年）が提供されています。
- ・教科書冊子と音声ペンの1学年分のセットが6,500円（送料、消費税込み）で提供されています。

【問い合わせ先】NPO法人テストと学習環境のユニバーサルデザイン研究機構 <http://www.udlte.or.jp/>

高次脳機能障がいについて



突然起きる脳損傷～高次脳機能障がいを知っていますか？～



交通事故や脳の病気などで学校を休んだ後に復学。その時に「あれ？前のあの子と何か違うな…」と感じたことはありませんか？もしかすると、それは「高次脳機能障がい（こうじのうきのうしょうがい）」かも知れません。

高次脳機能障がいは、交通事故やスポーツ中の脳外傷、脳梗塞・脳出血・脳炎・脳腫瘍といった脳の病気、心肺停止・蘇生後の低酸素脳症といった、**脳の損傷が原因で起きる後遺症**のことです。就学場面で最近よく耳にする、先天性もしくは発達過程の中で出てくる知的障がいや発達障がいとの違いはここにあります。また、交通事故は日常茶飯事起こっており、脳の病気なども突然発症するので、高次脳機能障がいは他人事ではありません。そして、その高次脳機能障がいの子どもは、調査（栗原2009）によると、全国で最低でも50,000人いると試算されています（本県の人口に換算すると約300人）。

高次脳機能障がいは、注意障がい（集中や同時進行が難しい）、記憶障がい（なかなか覚えられなかったり忘れてしまう）、遂行機能障がい（優先順位がつけられない）、社会的行動障がい（元々の性格気質が変わってしまったり、強くなったりする）を基本的な症状としています。しかし、脳損傷の原因や場所によっても生じる症状が異なるため、高次脳機能障がいの理解が難しいという声を聞きます。そのような時にご相談いただけるのが、「福井県高次脳機能障がい支援センター（以下支援センター）」です。現在子どもの高次脳機能障がいに対しては、①高次脳機能障がいの医療的な情報提供（学校支援会議への参加など）、②進学・卒業といったライフステージの変化に合わせたシームレスな支援（進学毎の情報再提供、学校卒業後の就労支援など）、③ピアサポート（子ども…自己肯定感を高めるプログラムへの参加、保護者…情報交換の場）といった支援体制を設けています。また、支援センターは福井総合クリニック内にあり、高次脳機能障がいに対する診断・評価・リハビリテーションも充実しています。

高次脳機能障がいの対応に困っている、進学や卒業後の就労に向けて相談したい、といった先生方や保護者の方がいらっしゃいましたら、まずは支援センターへ一度ご相談下さい（相談は無料です）。その上で一緒に対応策などを考えていくことができると考えています。

福井県高次脳機能障害支援センター（福井総合クリニック内）

支援コーディネーター・作業療法士 中島裕也

TEL：0776-21-1300（内線2540）

E-Mail：fukui-koujinou@kve.biglobe.ne.jp



ピアサポートで
子どもたちが
作った手形アート
です

実践研究発表会のご案内

特別な教育的ニーズがある児童生徒への指導や支援の在り方、園・学校全体で取り組む特別支援教育に関する実践研究の発表を通して、広く意見や情報を交換し、指導の一層の充実と教職員の資質向上を図るため、『実践研究発表会』を開催します。様々な校種等の実践を知ることができます。ぜひご参加ください。

日時：令和2年 2月 5日（水）

会場：福井県特別支援教育センター

☆ 詳しくは、各園・学校・機関に配付する開催要項（12月末配付）をご覧ください。また、ホームページでもご案内いたします。

センターだより

すくらむ 第92号



発行日 令和元年10月18日
発行所 福井県特別支援教育センター
所在地 〒910-0846
福井市四ツ井2丁目8-1
TEL (0776)53-6574
FAX (0776) 52-6272
E-mail tokuse@pref.fukui.lg.jp
URL <http://www.fukuisec.ed.jp>